

带状疱疹の予防接種についての説明書(定期接種・任意接種)

○带状疱疹とは

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した 水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。带状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

○带状疱疹ワクチンとは

带状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、組換えワクチン（GSK社：シングリックス）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なっていますが、いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

どちらのワクチンがよいか等のご相談には市は対応しておりませんので、下記表をご参考下さい。
また、医療機関によっては取り扱いがないワクチンもあります。

種類	生ワクチン「ビケン」 (乾燥弱毒生水痘ワクチン)	組換えワクチン「シングリックス」 (乾燥組換え带状疱疹ワクチン)
接種回数	1回	2回 (1回目接種の2か月後から6か月以内に2回目)
助成額	4,000円	10,000円×2回
自己負担額	2,000円から5,000円程度	1回につき10,000円から15,000円程度
予防効果	接種後1年時点－6割程度 接種後5年時点－4割程度	接種後1年時点－9割程度 接種後5年時点－9割程度 接種後10年時点－7割程度
特徴	・1回接種で完了 ・接種費用が比較的安価	・2回の接種が必要 ・接種費用が高額
		・免疫低下の人も接種可能
注意点	免疫機能に異常のある疾患をお持ちの方や免疫を抑制する治療を受けている方は、接種できない。 また、免疫抑制剤など服用している薬剤の種類によっては接種を受けることができない。	2回目の接種は、1回目の接種から2か月後、それを超える場合は、6か月後までに接種を受ける。
主な副反応	注射部位の発赤、かゆみ、熱感、腫れ、痛み、しこり、だるさなど	注射部位の痛み、発赤、腫れ、痒み、胃腸症状、疲労感、寒気、発熱など

○対象となる方(香取市に接種日当日に住民登録があり下記に該当する)

<定期>

- ①年度内に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳(※)を迎える方
 - ② 60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。
令和7年度から令和11年度までの5年間の経過措置となります。
- ※ 100歳以上の方については、令和7年度に限り全員対象となります。

<任意> (定期接種以外の方)

香取市では、令和6年からはじまった任意接種も引き続き併せておこなっていきます。ただし、過去に帯状疱疹の助成を受けたことがある方は、助成の対象外です。

①50歳以上

- ②18歳～49歳までで疾病または治療により免疫不全や免疫機能の低下等で医師が必要と認めた方(組換えワクチンのみ)

○予防接種を受ける方法

<定期> 対象者には個別通知いたします。

<任意> 希望者は健康づくり課窓口で申請してください。予診票を交付します。(申請時までどちらのワクチンにするか決めてください。)

※定期接種と任意接種では、使用する予診票が異なります。

○他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナウイルスワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチン(阪大微研)については、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。

○接種を受けた後の注意点

ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。当日の激しい運動は控えるようにしてください。

○予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。